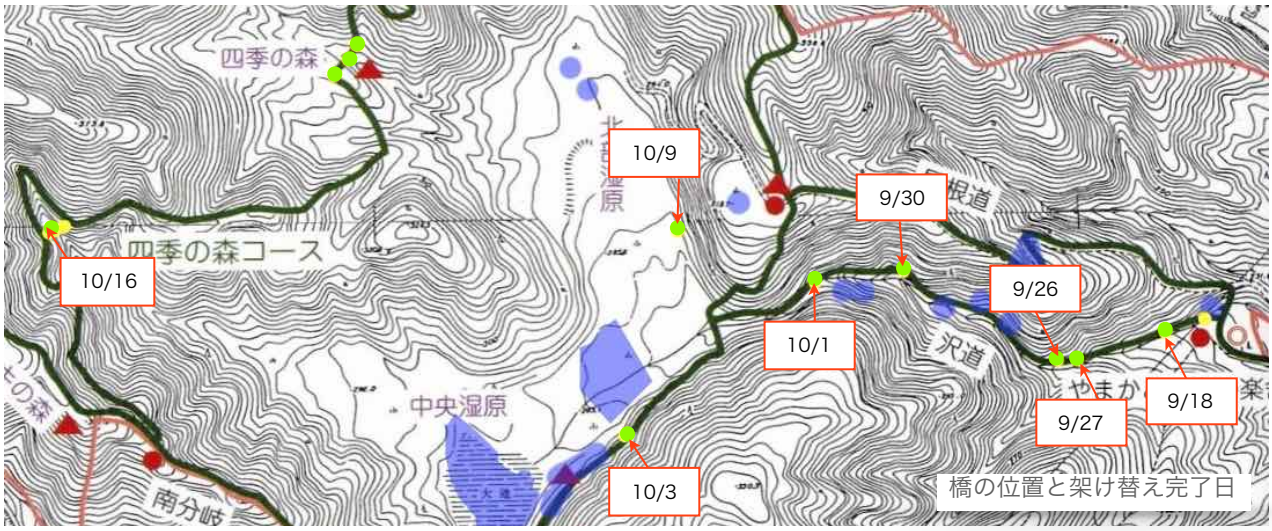
Yamakado News Letter

山門水源の森を
次の世代に引き継ぐ会



橋の位置と架け替え完了日

材料は極力、風倒木などを利用

ロープウインチで斜面を降ろす

ムンターヒッチで安全対策

簡易製材機で角材に成形

難所の湿原沿のバイパス 10/3

倒木アカマツも利用

橋の架け替え作業

紅葉の行楽シーズンまでには間に合わせようと、9月中旬から老朽化した橋の架け替え作業を取り掛かっています。25日現在、残るは四季の森に架かる３つの橋となりました。

橋の架け替えや階段の補修などで、事あるごとに取りやすい場所から木材を調達していると、当然ながら調達しやすい場所はどんどん減っていきます。またそうした選び方は保全の観点からも好ましくありません。今回は極力風倒木や枯死木、皮剥被害木を利用することにしました。取り出しにくい場所にある木も、今まで取得した技術や活動助成で購入した道具類を駆使し、また様々な方法を試しながら搬出を進めました。

斜面の上方で伐倒した場合は、その場で角材加工するのは難しので、平らな場所まで降ろしたいところです。しかし、木材が転がり落ちる場合はそれを制御する方法がありません。重い木を動かすにはロープウインチを使いますが、そんな中、ムンターヒッチというロープワークが制動に役立つことを知りました。早速試してみましたところ、うまくいきました。たった１個のカナビラとロープの結び一つで、可能性が大きく広がるのは感動的です。

また、滑車を利用する事で人が持ち上げるのが困難な重い丸太もロープウインチで引き上げることができ、大きな倒木のアカマツなども資材として加工が可能となりました。

四季の森のベンチも新調中

紅葉シーズンに間に合うか!?

引き継ぐ会の目的

引き継ぐ会規約第２条（目的）には「この会は、里山で貴重な生物が生息する山門水源の森の自然と文化を**保全し**、次の世代に**引き継ぐ**ことを目的とする。合わせてこの森の望ましい利活用に関しても検討する」とあります。

保全の課題

このの森の自然と文化を保全していく上での課題は、2000年代は大きく分けると以下の２つでした。①利用しなくなったことで荒廃していく二次林やヒノキ植林地を、ボランティアの手によってどのように整備していくか。②一部マニアによる希少種の盗掘をどう防止していくか。この二つであったと思います。

①については、手間をかけて整備を行った結果、ササユリが復活したりなど成果が現れ始めました。しかし、2010年代に入ると急激に増加したシカが大きな問題となります。成果を実感し始めた矢先、下層の植物がことごとくシカに食われてしまうという、長年の努力が帳消になる事態になりました。

防護だけでは解消しない獣害問題

直面する獣害にどう対応するか。ボランティア団体にできることとして、守りたい植物にシカを近づけさせないよう、ネットや金網の設置を続けてきました。しかし、私達は防護だけでは夜な夜な押し寄せるシカの群れから植物を守れないことを、すぐ実感することになります。日中毎日のように見回りを行ないネットの無事を確認してはいるものの、ある日突然一夜にしてネットが破られ植物が食われてしまう、ということが多々起こりました。そもそも森全域を防護柵で囲うことは不可能ですから、保護域外では植物の急速な衰退が進み、それを止める術はありませんでした。

シカの頭数を減らす

このような事態に対し、この森では2014年より狩猟捕獲、2017年より有害捕獲を行い、この森に生息するシカの数を減らしています。その効果もあると思いますが、最悪の時期と比べても昨年、今年と徐々に植生が回復しているのを実感しています。

しかしながら、こうした取り組みはたった1km2に満たない狭い範囲の活動ですから、もう少し広い範囲での動物や植物の傾向も見ながら対応していくことが重要であると考えています。

今後に向けて

さて、こうした昨今の保全の取り組みですが、様々な課題や問題を含んでいます。関連する情報をどのように得て、どのように実行するのか。例えば、捕獲技術の向上、生物多様性の保全とシカの適正頭数とは、野生動物管理の考え方や取り組み方とは、有害捕獲とレジャーとしての狩猟は目的が違うにも関わらずそれらは混在した状態にある問題などなど…自然科学と社会科学の分野を横断した複雑な問題です。そうした問題に対し、日々模索している状態です。

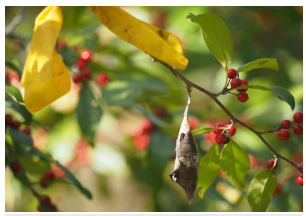
それらに対して、個々の事例では手本となる人や機関はありますが、個別に捉えるのではなく、それぞれを関連づけながら総合的な課題として把握し、調査研究を行い、また効果的な活動が行える機関が身近にはありません。そのことが大変不便で残念です。

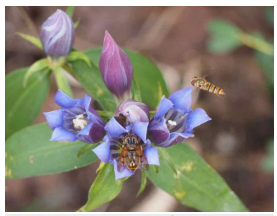
10月5日に開催された岐阜大のシンポジウム
山形県、岐阜県、兵庫県での取り組みが発表された

兵庫県では兵庫県森林動物研究センターを平成19年に設立し、行政職員と大学の研究者が合同で、「人」と「野生動物」と「森林などの自然環境」に関する課題に取り組まれいます。ホームページからは膨大なデータが誰でも閲覧可能です。また、岐阜県では森林・環境税を活用して、岐阜大学に寄附研究部門を設置。岐阜県における野生動物保護管理体制及び被害対策の課題と解決策に関する調査研究、人材育成に取り組まれています。その活動の一環で、定期的に広く一般向けの公開講座も開講されています。

以上のように行政機関と研究機関が連携し、調査研究し、情報を提供し、広く地域と関わっていく、そうした機関が身近にあれば良いなぁ思います。如何でしょうか。

今月の森の様子


黄テープでマークされたシンジュサンの越冬蛹


今年はリンドウが沢山咲いた